

委託事業実施内容報告書
平成26年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業
【地域日本語教育実践プログラム(B)】

受託団体名 地球っ子クラブ2000

1. 事業名称 多文化ハッピープログラム『地域社会とつながる日本語教室へかかわる ことは かわること〜』

2. 事業の目的

外国にルーツのある子どもたちが、そのことばと文化の多様性を活かしつつそれぞれの能力を発揮して日本社会で活躍できるように、よりよい教育環境を作るための事業とする。そのために、親の日本語学習（教育に関する分野）をサポートし、また、日本社会に積極的に出て行く機会（ボランティア活動や文化紹介講座など）を作る。同時に、子どもたちを取り巻く学校・地域社会などに働きかけ、お互いが知り合い、理解し合える機会を作っていくなど、外国籍住民と地域社会がにつながる双方向の内容とする。

3. 事業内容の概要

地球っ子クラブ2000、多文化子育ての会Coconico、てんきりん(事務局)の三つが協力し合って、また、行政や他団体と連携して目標に取り組む。さらに、日常の教室活動の中心に当事者がいることに意義があるという考えから、外国出身者に補助者として活躍してもらう。1)運営委員会…外国から来た子どもたちとその保護者の教育問題を共有し、事業の実施を後援する。2)地球っ子クラブ2000…日本の教育についての親の学びの機会、学校行事体験などを盛り込み、将来のブレスクールのモデルを念頭に置いた親子参加の日本語教室。七里公民館との協働事業では、地域の外国出身の親を対象にした学校教育についての講座を実施。3)多文化子育ての会Coconico…南浦和図書館、コープみらいと協働して、外国出身のママの活躍の場をひろげる。また、参加者の中に出産する人が多くいることから、出産、育児にについての学びの機会を作る。4)てんきりん(事務局)…日本人と外国人が共に学び合う日本語教室・にほんご畑を軸に、地域でのボランティア活動を企画、リードし、積極的に地域社会に出ていく。そのための日本語学習を進める。5)講演会…さいたま市教育研究所と協働して教職員向け研修事業を行う。また、その事業の発展として、地域の人や外国出身者も対象とした石井恵理子氏、春原憲一郎氏の講演会をもち、学校、地域社会が、外国から来た子どもたちの教育環境の改善に取り組めるよう学びの場を作る。

4. 運営委員会の開催について

【概要】

回数	開講日時	時間数	場所	出席者	議題	検討内容
1	平成26年 5月16日 (金) 15:00～ 17:00	2時間	さいたま市市民活動サポートセンター・コムナール北ラウンジ(バルコ9F)	田村 浩司 田中 秀幸 島崎 辰夫 八木原 利幸林 春枝 李 銀美 高柳 なな枝 井上 くみ子 芳賀 洋子 金子多美枝	(1)今までの文化庁事業の成果と課題について (2)今年度事業「地域日本語教育実践プログラムB」の趣旨と連携 (3)意見交換。増えている学齢超過の子どもの問題について。 (4)外国出身の保護者の声	・連携の必要性の確認 ・外国人保護者への周知の方法について。 ・学齢超過の子どもたちの教育の保障と居場所作りについて。
2	平成26年 11月7日 (金) 15:00～ 17:00	2時間	さいたま市市民活動サポートセンター・コムナール北ラウンジ(バルコ9F)	田村 浩司 田中 秀幸 島崎 辰夫 李 銀美 高柳 なな枝 芳賀 洋子 井上 くみ子 金子多美枝	(1)今年度文化庁事業の事業内容報告と検討(とり組み1～\$) (2)今年度の文化庁のとり組みから生まれた新規事業「さいたま市教育研究所との連携について	・とり組みへの参加者から見えた、エスニックコミュニティとの繋がりについて ・学齢超過の子どもの問題。フリースクール、ブレスクールの必要性について。 ・埼玉新教育研究所との連携 教員を対象とした講座3回について。
3	平成27年 3月6日 (金) 15:00～ 17:00	2時間	さいたま市市民活動サポートセンター・コムナール北ラウンジ(バルコ9F)	田村 浩司 田中 秀幸 島崎 辰夫 李 銀美 八木原 利幸 高柳 なな枝 芳賀 洋子 井上 くみ子 金子多美枝	(1)今年度文化庁事業の事業内容報告と検討(とり組み1～\$) (2)今年度の文化庁のとり組みから生まれた新規事業「さいたま市教育研究所との連携について (3)今年度の事業の成果と課題 (4)来年度に向けて。事業の発展と継続 (5)10代後半の子どもの現状	・各とり組み鼠進める中で、図書館、博物館、自然保護団体、子育てのボランティアグループなど、いろいろな分野との連携が進んだ。 ・グローバル賞授賞を契機に、発進力を増していきたい。市長との面談も、実現する。 ・川崎中の時間について。埼玉でも、外国につながる日本人の子どもの居場所作りを考えていく必要がある。

5. 取組についての報告

○取組1: 学校や地域社会につながる日本語教室

(1) 体制整備に向けた取組の目標

- ①将来のブレスクールのモデルを念頭に置いた親子の学びの場＝保護者が積極的に子どもの教育について関われるようになること、また子どもが学校教育においても本人の力を発揮していけることを目標とする。
②子どもの子育て・教育に関することだけでなく、保護者自身の社会参加を促し、「教わる」だけではない活躍の場の創造。さらには日本人住民の意識変化のきっかけとなるような場の創造を目指す。

(2) 取組内容

①親子参加の日本語教室 保護者が小学校入学前から少しずつ日本の学校について適切な情報を得、日本語を学びながら子育て・教育について日本語で話す場を設ける。また学校行事体験(デイキャンプ・給食づくり・取り組み3のボランティア体験)なども行った。②保護者の地域参加保護者が講師となり、得意とすることを日本人に向け発信・教授し、またはいっしょに作ることで、地域とのつながりをつくるようにした。また、地域の日本人にも、外国人とのコミュニケーションの取り方になれてもらうことで、共に生きる街作りの足がかりとなると考えた。

(3) 対象者

外国人親子・家族、外国にルーツを持つ親子・家族

(4) 参加者の総数 99 人

出身・国籍別内訳

中国	14人	インドネシア	0人	
韓国	2人	タイ	1人	ギニア1人、ナイジェリア3人、パラグアイ2人、
ブラジル	0人	ペルー	0人	シンガポール1人、マレーシア1人、モンゴル1人
ベトナム	4人	フィリピン	4人	カンボジア1人、バングラデシュ27人
ネパール	0人	日本	34人	

(5) 開催時間数(回数) 2時間 4時間 (全 8+2 回)

(6) 取組の具体的内容

回数	開講日時	時間数	場所	参加人数	国籍(人数)	取組のテーマ	内容	講師等氏名	補助者氏名
1	平成26年 5月10日 10:00～ 12:00	2時間	七里公民館	7人	中国(4人)、ベトナム(2人)、日本(1人)	就学前日本語講座 準備	昨年度の就学前日本語講座に参加した保護者を中心に、昨年度のチラシなどを見直し、わかりにくかったなどを改善する。	高柳なな枝	小野寺美樹 松澤説子
2	平成26年 7月26日 10:00～ 12:00	2時間	七里公民館	22人	中国(10人)、ベトナム(3人)、韓国(2人)、ナイジェリア(3人)、日本(4人)	就学前日本語講座①	・日本での子育てや教育について語り合うことで、日本語力の向上を目指す。 ・就学前の親子を対象にすることで、学校に入学する前に日本語の学校事情などを知りその準備を親子であることを目的とする。 ・何かわからないことがあれば、今後地球っ子クラブ2000Iに来て質問などをしていけるような体制作りを目指す。	高柳なな枝	小野寺美樹 芳賀洋子 井上くみ子 松澤説子 金子多実枝
3	平成26年 7月30日 10:00～ 12:00	2時間	七里公民館	7人	中国(2人)、韓国(2人)、パラグアイ(1人)、フィリピン(1人)、日本(1人)	就学前日本語講座②	・日本での子育てや教育について語り合うことで、日本語力の向上を目指す。 ・就学前の親子を対象にすることで、学校に入学する前に日本語の学校事情などを知りその準備を親子であることを目的とする。 ・何かわからないことがあれば、今後地球っ子クラブ2000Iに来て質問などをしていけるような体制作りを目指す。	高柳なな枝	小野寺美樹 井上くみ子 金子多実枝
4	平成26年 8月3日 10:00～ 12:00	2時間	七里公民館	3人	中国(3人)	就学前日本語講座③	・日本での子育てや教育について語り合うことで、日本語力の向上を目指す。 ・就学前の親子を対象にすることで、学校に入学する前に日本語の学校事情などを知りその準備を親子であることを目的とする。 ・何かわからないことがあれば、今後地球っ子クラブ2000Iに来て質問などをしていけるような体制作りを目指す。	高柳なな枝	小野寺美樹
5	平成26年 5月24日 10:00～ 14:00	4時間	さいたま市見沼田んぼ公園	29人	中国(5人)、パラグアイ(2人)、シンガポール(1人)、カンボジア(1人)、モンゴル(1人)、日本(19人)	ボランティア体験	・自然や動物と触れ合いながらボランティアを楽しむ。 ・社会の一員としてボランティアに参加し、地域社会ともつながる。 ・さいたま市内の他機関と連携し、日本人側にも外国人住民のことを知ってもらう。	加倉井範子 高柳なな枝	小野寺美樹 井上くみ子
6	平成26年 7月12日 13:30～ 15:30	2時間	植竹公民館	7人	フィリピン(1人)、シンガポール(1人)、中国(2人)、韓国(2人)、日本(1人)	食育① 話し合い・準備	・食育をテーマに調理実習を行うシリーズ1回目。「小麦粉」をテーマに、何をつくるか考える。料理や調理に関する日本語を学びつつ、自国の料理を子どもや仲間たちに伝える。	高柳なな枝	小野寺美樹 井上くみ子
7	平成26年 7月26日 13:30～ 15:30	2時間	植竹公民館	13人	フィリピン(1人)、シンガポール(1人)、中国(5人)、韓国(2人)、ギニア(1人)、ベトナム(1人)日本(2人)	食育② 調理実習	・食育をテーマに調理実習を行うシリーズの2回目。料理や調理に関する日本語を学びつつ、「小麦粉」をテーマに自国の料理を子どもや仲間たちに伝える。	高柳なな枝	小野寺美樹 井上くみ子 芳賀洋子 松澤説子
8	平成26年 10月25日 10:00～ 14:00	4時間	さいたま市さざん花公園青少年野外活動センター	52人	中国(4人)、フィリピン(3人)、シンガポール(1人)、マレーシア(1人)、タイ(1人)、バングラデシュ(27人)、韓国(2人)、日本(13人)	デイキャンプ	・外国出身者にリードしてもらい、日本語を媒介語とし、さまざまな国の人と交流し親睦を深める。 ・教室から出て自然体験をすることで、豊かな成長を図る。 ・今まで教室に來たことがない人でも、友人を通じて参加し、社会参加・今後の教室への参加のきっかけとする。	加倉井範子 高柳なな枝	小野寺美樹 芳賀洋子 松澤説子 金子多実枝
9	平成26年 10月11日 13:30～ 15:30	2時間	植竹公民館	9人	中国(2人)、韓国(2人)、バングラデシュ(1人)、フィリピン(2人)、タイ(1人)、日本(1人)	国際フェア準備	・国際フェアの準備を行うことにより、自分たちが主体的に国際フェアに参加できるようにする。	高柳なな枝	小野寺美樹 芳賀洋子
10	平成26年 11月1日 10:00～ 17:00	2時間	さいたま新都心けやき広場	9人	中国(1人)、韓国(1人)、日本(5人)パラグアイ(1人)フィリピン(1人)	国際フェア	・子どもたちが日本語でコミュニケーション取りながら主体的にお店屋さんを展開し、社会参加する。 ・地球っ子クラブ2000の活動を知ってもらう。	高柳なな枝	芳賀洋子 松澤説子

(7) 参加者の募集方法

- ①チラシ(就学前日本語講座)、お知らせ(ボランティア体験・デイキャンプ等)
- ②紹介クチコミ

(8) 特徴的な活動風景(2～3回分)

- ①ボランティア体験(平成26年5月24日)
NPO法人エコエコ、埼玉県さいたま農林振興センター、大崎公園・子供動物園との連携。

1. 集合(現地集合／大宮駅集合／東浦和集合)
2. 始めの会
 - (1)名札作り
 - (2)趣旨説明・注意事項
 - (3)農林振興センターの紹介・挨拶
 - (4)グループ分け・自己紹介
 - (5)NPO法人エコエコから葛抜きについて説明
3. 葛抜き、袋分け
4. 昼食
5. 大崎子供動物園へ移動
 - (1)大崎公園・子供動物園 飼育担当学芸員から挨拶
 - (2)エサやり見学
6. 終わりの会
みんなのことばで「ありがとう。さようなら」(スペイン語、英語、中国語、モンゴル語、カンボジア語)
7. 動物公園見学ツアー(希望者)活動の特徴がわかる報告を詳細に記載。



- ②就学前日本語講座(平成26年7月26日)
 1. お母さんグループと子どもグループに分かれる
 - (1)お母さんグループは2グループに分かれ、子育て教育について話す。
 - (2)子どもたちは小麦粉粘土、または裁縫で作品づくり(粘土17人、裁縫4人)



2. 全体で多言語絵本
 - (1)『挨拶絵本』
日本語、韓国語、ベトナム語、エド語(ナイジェリア)、
ギニア語、中国語
 - (2)『わにさんドキッ はいしやさんドキッ』日本語・韓国語



(9) 取組の目標の達成状況・成果

- NPO法人エコエコや埼玉県さいたま農林振興センター、大崎公園・子供動物園と連携でき、教室にとどまらない活動 ができた。日本人側にも外国人住民との新たな交流ができ、相互理解が深まった。
- デイキャンプでは、エスニックコミュニティとのつながりができた。そこから日本語教室が必要そうな人へのアプローチの可能性が見えた。
- 就学前日本語講座では、昨年参加し継続的に参加している保護者やすでに参加している保護者がスタッフとして活躍してくれた。
- 日本語だけにとどまらず、参加者の母語・母文化も尊重し、すべての参加者にとって新たな学びの場となった。

(10) 改善点について

- 就学前日本語講座では七里公民館と連携できたが、保育園・幼稚園でチラシをもらった人の参加がなかった。場があることの外国人親子、関係者への周知が必要。
- 保育園・幼稚園・小学校という学校関係と地域(公民館)との連絡会があってもいいのではないか。縦割りにならないサポートの必要性。
- 親子との繋がりから、社会参加に促すようなエンパワメントの継続。

○取組2： ＜育児で育自＞日本で自分らしく生きる！！みんなステキなお母さん！！地域で活躍しよう！！

(1) 体制整備に向けた取組の目標

日本では「教えてもらう」ことばかりになりがちな外国出身のお母さんたちが、自国にいた時と同じように自分の能力が発揮でき、いきいきと自信を持って日本で暮らせること。また、日本語のレベルにかかわらず、子は親を尊敬し、自分のルーツである親の国や言葉を拒否せず自然と興味をもつこと。家に母子だけで閉じこもらず、積極的に外へ出ていくこと。

(2) 取組内容

外国出身の親子の居場所作り、仲間作り、活躍の場作りに取り組んだ。また、積極的に外に出て行くことにより、当事者の行動範囲を広げることと共に、日本人側の意識の変革をめざした(例えば、やさしい日本語で話せばコミュニケーションができる)。具体的な内容は次の通りである。

- ・母語を使ったおはなし会や絵本の読みかきのスキルを磨き、発表に向けてレパトリーも増やすために絵本の勉強。
- ・日本で出産する参加者が増えているので、出産の相談や子育ての不安について話したり、出産に関する日本語を学ぶ機会を作った。命に関わる問題なので、今年度は特にこの点に力を入れた。
- ・図書館、公民館と連携し「多言語おはなし会」、地域の日本人を対象に「お料理教室」を開催。地域で活躍する場作り。活躍する母親の姿を子どもが見る機会作り。
- ・自国の事を紹介し、いきいきと話せる場作り。
- ・子どもと一緒に電車で動物園や科学館などへ積極的に出かけ、行動範囲を広げるよう、リード。
- ・国際交流協会主催のフェアに出店。
- ・外国出身者自身が外国人のための子育て支援の中心的存在となってもらえるよう 先輩格の外国出身者を、Coconcoの活動の中で指導者の補助者として位置づけ、運営にも積極的に参加していくようにした。

(3) 対象者

外国にルーツを持つ親子、子育て経験者、また、これから子育てをしようとする国際結婚の人

(4) 参加者の総数 56人

出身・国籍別内訳			
中国	11人	インドネシア	7人
韓国	4人	タイ	人
ブラジル	人	ペルー	3人
ベトナム	人	フィリピン	人
ネパール	人	日本	21人

(5) 開催時間 20 時間

(6) 取組の具体的内容

回数	開講日時	時間数	場所	参加人数	国籍(人数)	取組のテーマ	内容	講師等氏名	補助者氏名
1	6月1日	2時間	秋ヶ瀬公園	19人	中国(4人)、ペルー(3人)、韓国(2人)、日本(10人)	バーベキュー	秋ヶ瀬公園で、バーベキュー。お父さんも参加し、活躍する機会を作る。	井上くみ子	小野寺美樹、橋本メリーナ
2	6月26日	2時間	六辻公民館	7人	マレーシア(1人)、中国(1人)、モンゴル(1人)、日本(4人)	お料理教室	地域の公民館で、マレーシア料理を紹介。一緒に作り、食べ、交流する。	井上くみ子	張園園、田代ドルマ
3	6月30日	2時間	コープブラザウらわ	10人	インドネシア(7人)、中国(3人)	居場所、交流、手遊び、日本語学習	子育て、育児について日本語で話す。不要となったベビー用品の譲渡。絵本や手遊びなど。	井上くみ子	小野寺美樹、張園園
4	7月6日	2時間	科学技術館	6人	中国(2人)、韓国(2人)、日本(2人)	お出かけ	科学館でサイエンスショーや実験などに参加し、親子で楽しく学ぶ。	井上くみ子	小野寺美樹
5	10月20日	2時間	コープブラザウらわ	8人	モンゴル(4人)、オーストラリア(2人)、日本(2人)、	フェア準備	国際フェアの準備。	井上くみ子	小野寺美樹、メリーマルチナ
6	11月1日	2時間	けやき広場	5人	ペルー(3人)、韓国(2人)	国際フェア出店	フェアに出店し、世界の家庭料理を紹介。多くの人に食べてもらう。子どもも手伝う。	井上くみ子	小野寺美樹
7	11月27日	2時間	コムナーレ	12人	パラグアイ(1人)、ペルー(1人)、韓国(1人)、香港(1人)、中国(1人)、バングラデシュ(1人)、モンゴル(1人)、日本人(5人)	おはなし会&ティータイム	「あつまれ親子」と共同で、絵本や手遊びを多言語で紹介。各国の文字、お茶、お菓子も紹介。	井上くみ子	芳賀洋子
8	1月29日	2時間	南浦和図書館	11人	韓国(1人)、パラグアイ(1人)、中国(4人)、日本(5人)	多言語おはなし会	多言語でのおはなしとワークショップ ・絵本『おんなじおんなじでもちよつとちがう』 ・韓国の絵本『いきっているハガリ』他 ・わらべうたとうた遊び『しろいはうさぎ』 ・イア論名も字を使って葉作り	井上くみ子	芳賀洋子、メリーマルチナ
9	2月2日	2時間	コープブラザウらわ	12人	モンゴル(4人)、韓国(2人)、日本(6人)	居場所、交流、手遊び、日本語学習	子育て、育児について日本語で話す。不要となったベビー用品の譲渡。絵本や手遊びなど。	井上くみ子	小野寺美樹
10	2月3日	2時間	神明社	5人	中国(3人)、日本(2人)	豆まき	地域の神社で行われる「節分祭」に参加。	井上くみ子	小野寺美樹

(7) 参加者の募集方法

チラシの配布。 Facebookにより情報拡散。口コミ。

(8) 特徴的な活動風景(2～3回分)



↑ 6月30日コーププラザうらわ
日本語での会話を楽しむ。
話題は主に子育て。



← 11月1日けやき広場
国際フェアに出店
世界の家庭料理を紹介



11月27日コーナー
「あつまれ親子」おはなし会
言葉、文字、お茶を紹介。

(9) 取組の目標の達成状況・成果

外国出身の親子にとって、居場所づくり、仲間づくりの場を提供できた。また、日本語レベルにかかわらず、自国の言葉や料理を紹介することで、地域でいきいきと活躍できる場を設けた。参加した日本人からも好評で、自身にもつながった。科学館や節分祭に出かけ、行動範囲も広がった。また、子育てについて話すことで、自然と会話が生まれ、日本語の上達にもつながった。

(10) 改善点について

平日の昼なので、仕事をしている人が参加しにくいのが課題。土日に出かけたり、イベントをする機会をつくるとよい。また、子育て支援センターへ出向き、子育てについて学ぶ機会があるとよい。

○取組3: “にほんご畑”で日本人も外国人も共に学び合い、ボランティア活動を企画し、地域に貢献しよう！

(1) 体制整備に向けた取組の目標

すべての基本は、外国につながる子どもたちが、日本において、豊かにその子らしく成長できる地域社会を作ることである。事務局を利用して、地球っ子クラブ、多文化子育ての会Coconicoの教室活動では行えないような、地域や多くの世代と密着した活動を、外国の人が中心になって活躍する活動を生み出すことによって、お互いの多様性を実感し、隣人として認めあえる地域になることを願う。外国の人が学ぶだけでなく、互いに学ぶ双方向の活動によって、繋がりが薄くなっている日本社会の地域の再生にも役立ち、それが、外国出身の子どもたちのみならず、配慮が必要な子どもたちが抱える困難を少しでも改善していくと考える。多文化共生と多様性の豊かさを持つ地域社会を作る契機にしたい。

(2) 取組内容

にほんご畑、多文化カフェを軸に、ボランティア体験企画、チャレンジスクールや、多言語おはなし会の企画や学習会を開き、多文化共生社会をリードする学びと交流の拠点作り。同時に、外国出身者の居場所、仲間作りの場作り。

(1)にほんご畑・多文化カフェ…テーマは、ボランティア企画、文化紹介、やさしい日本語、多言語による絵本の学習、日本語談話など多岐にわたる。外国出身者が質問や、テーマを出し、地域の日本人と共に楽しみ、考えるスタイル。

(2)自主事業として行ってきた「10代の勉強部屋」を外国出身の若者と日本社会をつなぐための学びの場「多文化みんなの勉強部屋」としてオープン。

(3) 対象者 外国出身の親子 外国籍住民 地域の日本人

(4) 参加者の総数 60 人 (他子ども11人)

中国	8人	インドネシア	1人	パラグアイ1人、ギニア1人、ロシア1人、モンゴル2人、カンボジア1人、香港1人、マレーシア1人
韓国	3人	タイ	2人	
ブラジル	0人	ペルー	1人	
ベトナム	1人	フィリピン	3人	
ネパール	0人	日本	33人	

(5) 開催時間数(回数) 2 時間 (全 10 回)

(6) 取組の具体的内容

回数	開講日時	時間数	場所	参加人数	国籍(人数)	取組のテーマ	内容	講師等氏名	補助者氏名
1	平成26年 4月17日 10:30～ 12:30	2時間	てんきりん(事務局)	8人	韓国1人、インドネシア1人+子ども、カンボジア1人、中国1人、香港1人、日本3人	にほんご畑	・ボランティア体験企画時間、アクセス、PR、内容について ・日本語談議…天気予報の日本語「～でしょう」	芳賀 洋子	大石やす子 田代 ドルマー
2	平成26年 4月30日 10:30～ 12:30	2時間	てんきりん(事務局)	16人	タイ1人、韓国1人、香港1人、中国1人+子ども、日本8人+子ども	多文化カフェ「馬日香日」	・ミニ講座「香港のおもてなし」「タイのおもてなし」 ・おもてなしをテーマに「おもてなしと仲間になること」	松澤 説子	井上くみ子
3	平成26年 5月15日 10:30～ 12:30	2時間	てんきりん(事務局)	13人	中国2人、モンゴル2人、タイ1人、香港1人、カンボジア1人、日本6人	にほんご畑	5月24日のボランティア体験・企画、こちらが作ったチラシをたたき台として、外国人解りやすいまたは外国人の観点からチラシ作成。	芳賀 洋子	大石 やす子 大奈路 アリシア
4	平成26年 7月17日 10:30～ 12:30	2時間	てんきりん(事務局)	14人	中国3人、カンボジア1人、ロシア1人、韓国1人、ベトナム1人、日本6人+子ども1人	にほんご畑	日本語談議: イメージビンゴ「夏休みといたら」 ・企画「学校のこと話しましょう」 8月のCoconicoおはなし会ワークショップ「いろんな国の言葉で名前を書こう」ワークシート作り	芳賀 洋子	大石 やす子 大奈路 アリシア
5	平成26年 7月30日 10:30～ 12:30	2時間	てんきりん(事務局)	16人	パプアニューギニア1人、中国2人、ギニア1人、フィリピン1人、韓国1人+子ども1人、日本8人+1人	多文化カフェ「馬日香日」	・話のテーマ「各国の夏の風物詩」各国の夏・暦について。お化けの話。お化けの折り紙(香港)	松澤 説子	大石 やす子 リリー チョン
6	平成26年 10月21日 10:30～ 12:30	2時間	てんきりん(事務局)	17人	韓国1人+子ども1人、香港1人、中国5人+子ども1人、フィリピン2人、日本5人+1人	にほんご畑	外国人からの質問 あうんの呼吸…どんな時使う？ つうかあとの違いは？以心伝心、これは日本の四字熟語。中国語では？白物家電…それぞれの家の冷蔵庫の色は？バラの模様の冷蔵庫など。 ・Coconicoおはなし会の準備	芳賀 洋子	大石 やす子 橋本 メリーナ
7	平成26年 9月11日 10:00～ 12:00	2時間	さいたま市市民活動サポートセンター・コムナーレ	13人	香港1人、韓国1人、パラグアイ1人、中国1人、バングラ1人、台湾1人	企画会議「あつまれおやこ」	さいたま市サポートセンターの母親ボランティアと「あつまれおやこ」の企画について話し合い。	芳賀 洋子	井上くみ子
8	平成26年 10月16日 10:30～ 12:30	2時間	てんきりん(事務局)	9人	香港1人、タイ2人、中国1人、カンボジア1人、ベールー1人	にほんご畑	・多文化カフェ企画、国際フェア企画。 「かわいい、かわいそう、かわいらしい、かわいがる」 タイの誕生日の色+生年月日から見るラッキーカラー・日本語相談	松澤 説子	大石 やす子 李 銀美
9	平成26年 10月29日 10:30～ 12:30	2時間	てんきりん(事務局)	22人	中国3人+子ども1人、タイ1人、カンボジア1人、韓国1人、日本15人	多文化カフェ「馬日香日」	「地域の日本人をよぼう！」香港のスープ餃子でランチタイム&バザー	芳賀 洋子	大石 やす子 リリー チョン
10	平成27年 1月30日 10:30～ 12:30	2時間	てんきりん(事務局)	16人	パラグアイ1人、香港1人、マレーシア1人+子ども2人、日本8人+子ども3人	多文化カフェ「馬日香日」	キムチ作り+キムチ作りの日の昼ご飯。ウンミさんは当日4時起きで白菜の塩漬け。11時、来た人から本漬けに。雪の中、よくみんな集まってくれた。	芳賀 洋子	大石 やす子 李 銀美

(7) 参加者の募集方法

HPの掲載、FB掲載、クチコミ。

(8) 特徴的な活動風景(2～3回分)

●9月11日(木)「あつまれおやこ」合同企画会議(コムナーレにて)
市民サポートセンター主催「あつまれおやこ」(11月予定)から
他言語での読みきかせの依頼を受けたが、
具体的な内容がなかったため、直接話し合う機会を作ることを
提案。この日の企画会議が実現した。

<話し合いの内容>

- ・当日のプログラムについて
- ・多文化共生とは?
- ・ワークショップの内容について
- ・いろんな国の文字で名刺を作る

各国のお茶の試飲

参加者と外国出身者とが自由に交流し、話せる場とする。

- ・日本人側も日本の子守歌を歌うなどの参加をすることに。

※サポートセンター及び他団体との企画会議をもち、
いろいろ話し合えたことは非常に有益であった。



●1月30日(水)多文化カフェ「馬日香日」にて

「キムチ作りとキムチの日の昼ご飯」

地域の日本人を呼ぼう! シリーズ。

前回のにほんご畑で希望が多かった「キムチ作り」

この日は朝から雪だったが、
地域の人、子連れの人などほぼ予定通りの人が参加。

多文化多世代の回が開催できた。

講師役のUさんは、出来るだけ短時間で出来るように

工夫を重ねてくれた。彼女の感想「料理は得意じゃなかったけれど、
みんなに紹介するためにずいぶん勉強した」と喜んでいた。

一緒に活動することがお互いに理解が深まった。



(9) 取組の目標の達成状況・成果

取組1や取組2で出てきた新しい課題をフォローすると共に、地域社会とつながることにより、外国につながる子どもの教育環境の改善を目指そうとしてきた中で、ボランティア体験、おはなし会などで、各方面と連携することが出来た。おはなし会も、多くの地域の親子に聞いてもらえ、新聞にも掲載され、図書館のかた達の多言語絵本や言葉についての外国出身者の母語についての理解を深めていただくことができたと思っている。

また、学齢超過の子どもの教育の問題について、運営委員会や、埼玉県多文化共生推進委員会などで、発信してすることが出来た。フリースクールなど、今後の体制整備に向けて、一歩を踏み出したように思う。

(10) 改善点について

日本語指導員として初めて外国につながる子どもたちと出会った時、すでに、子どもたちが十分な教育を受けているといえない状況にあること、言葉の問題を周りの人、親にさえ分かってもらえない状況にあること、そして、それが子どもたちの成長に与える影響に危惧を感じてきた。特に、国際結婚の増加により、日本生まれの外国につながる子どもたちは増えており、中には、公的な教育だけではなく、どこでも育ててもらえないまま成長するよう子どもが出る可能性も否定できず、見過ごされない問題になってきている。これら、外国につながる日本の子ども達の問題をもっともっと多くの行政機関、教育関係者に発信していかなければいけないと感じている。幸い、文化庁の委嘱事業が実績になって、いろいろなところで、お話しできる機会も増えた。外国につながる日本の子どもたちと出会ってきた大人として、子どもたちのメッセージをもっと広く、勇気を持って、伝えていく必要がある。

○取組4: “すべての子どもはこれからの日本を支える宝”～多文化の子どもたちを育てる街をつくるために連携しよう～

(1) 体制整備に向けた取組の目標

さいたま市の教員研修事業では、実際に子どもたちと接している学校の先生達の直面している問題を共有し、今まで子どもたちと関わってきた経験から、子どもたちから受け取ったメッセージを伝え、親とのコミュニケーションのノウハウを伝える。また、また、それらの講座を受けて、石井恵理子氏の講演会、及び、春原憲一郎氏の講演会を開き、地域社会を巻き込みながら、外国に繋がりのある子どもたちの教育を保障するために、学校、地域、日本語指導員はどのような対応をすればいいか? またできることは何かを学ぶ場を作る。

(2) 取組内容

子どもたちの教育環境の改善をめざして、昨年、今年度と地域の多文化共生化を進めるための講演会を実施してきたが、肝心の学校関係者の参加が望めないのが現実であった。文化庁の事業には、さいたま市の教育委員会が当初から運営委員として参加。連携を進めた結果、今年度、さいたま市教育委員会教育研究所が教員を対象とした研修会を開ける運びになって、当団体は協力者として関わる事ができた。具体的な内容は、1)『教師力』パワーアップ講座……さいたま市教育研究所主催の教員のための講座にて、外国につながる子どもがクラスにきたときの対処の仕方、保護者とのコミュニケーションの取り方等について、現場の悩みを出し合いながら話し合い、対策を考えていくもの。地球っ子クラブ2000の日本語指導員経験者が中心となって、教育研究所と連携して行った。2)教職員夏休み希望研修……クラスに外国に繋がりのある子どもたちがいる教師が集まって直面する問題などについて話し合い、多文化の子どもたちの心やことばの問題を理解し力を伸ばすスキルや、文化の違いを教室現場で活かす方法、保護者とのよりよい対応の仕方などを探るものである。3)上の繋がりをうけて、文化庁の委嘱事業として石井恵理子氏の講演会「こどもたちの教育をテーマにしたもの」と春原憲一郎氏の講演会「多文化の街作り、人作りをめざすもの」を開催した。

- (3) 対象者 学校関係者、一般市民、外国出身の市民、日本語教育関係者、他
(4) 参加者の総数 95 人

中国	10人	インドネシア	0人	パラグアイ1人、モンゴル2人、マレーシア1人
韓国	3人	タイ	2人	
ブラジル	1人	ペルー	0人	
ベトナム	1人	フィリピン	1人	
ネパール	0人	日本	73人	

- (5) 開催時間数(回数) 2 時間 (全 5 回)
(6) 取組の具体的内容

回数	開講日時	時間数	場所	参加人数	国籍(人数)	取組のテーマ	内容	講師等氏名	補助者氏名
1	平成26年 8月26日 9:00～ 12:00	3時間	さいたま市 職員研修セン ター	14人	日本(12人)	研修会	「日本語指導が必要な児童生徒の支援方法研修会」 さいたま市内の教員を対象とした希望研修	高柳なな枝 芳賀洋子	
2	平成26年 9月4日 18:30～ 20:30	2時間	浦和コムナーレ 10階 第14集 会室	47人	中国(5人)、韓国 (3人)、ブラジル(1 人)、ベトナム(1 人)、タイ(2人)、 フィリピン(1人)、 パラグアイ(1人)、 日本(33人)	講演会	「ゆたかな言葉・ゆたかな成長のために～今、大人た ちのできること～」 お父さんの言葉、お母さんの言葉、学校で学ぶ言葉、 友達と話す言葉……。さまざまな言葉に囲まれた子ども たちは、どのようにして言葉を身につけていくのか。 未来につながるすべての子ども(外国につながるの ある子ども・日本の子ども)が、生き生きと自分を表現で きる言葉を発信するために、周りが心に留めておくべき ことは何か。	石井恵理子 氏	金子多実枝
3	平成26年 11月21日 19:00～ 20:30	90分	さいたま市教育研究	7人	日本(7人)	研修会	「日本語指導が必要な児童生徒の支援方法講座①」 さいたま市内の教職員を対象とした「『教師力』パワ アップ講座」の一環として	高柳なな枝 芳賀洋子	
4	平成25年 2月6日 19:00～ 20:30	90分	さいたま市教育研究	5人	日本(5人)	研修会	「日本語指導が必要な児童生徒の支援方法講座②」 さいたま市内の教職員を対象とした「『教師力』パワ アップ講座」の一環として	高柳なな枝 芳賀洋子	
5	平成25年 2月7日 13:30～ 15:30	2時間	コープラザ浦和	45人	日本(34人)、韓国 (2人)、中国(5 人)、モンゴル(2 人)、マレーシア(1 人)、パラグアイ(1 人)	講演会	「学びほぐしの教室づくり」 体をほぐす。心をほぐす。頭をほぐす。関係をほぐし、 社会をほぐす。一生懸命さのあまり、私たちは思い込 みや固定観念にとらわれて相手の多様なニーズが見 えにくくなっていることがあるのではないかな。多文化多 世代のみんながホッとできる地域づくり、教室づくりを 一緒に考えてみる。	春原憲一郎 氏	

- (7) 参加者の募集方法

チラシの配布、HPの掲載、FB掲載、クチコミ。

- (8) 特徴的な活動風景(2～3回分)

●石井恵理子氏講演会

①石井恵理子氏講演会(平成26年9月4日)

1.石井先生講演会

- (1)子どものことばを育てるために必要な視点
(2)ことばの力とは
(3)第1言語(L1)と第2言語(L2)の関係
(4)学びをうながし、ことばを育てるく作業ではなく、学びを!!>

2.多言語お話し会

3.アンケート記入

●「学びほぐし野教室作り」春原憲一郎氏講演会(平成27年2月7日)

- (1) 社会を支える自国の文化は、自ら意識されていないことが多く、他者と出会って初めて気づく。その気づきから学びほぐしは始まる。 対面
のざらざらしたやり取りがまず大切。
(2) コミュニケーション力、想像力をつけるためのワーク体験。
(3) アンケート記入後、各国のお茶とお菓子を楽しみながら、多文化を実感。



(9) 取組の目標の達成状況・成果

- 「ゆたかな言葉・ゆたかな成長のために～今、大人たちのできること～」右开思埋子氏の講演会
 - ・多文化共生に関わるテーマは比較的参加者も多く、子どもの言葉についての講座はなかなか集まりにくい傾向にあるが、今回はどちらのテーマの講演会も大盛況であった。
 - ・外国出身の保護者が子どものことばについて学ぶ機会になった。
- さいたま市教育研究所と連携し、さいたま市内の教職員を対象とした講座・研修会が行えたことは成果であった。日本語指導が必要な児童生徒が学級にいる教員や、指導にあたっている教員との連絡会になり、悩みを打ち明け合ったり、情報提供・共有ができた。
- 「学びほぐしの教室作り」春原憲一郎氏の講演会
 - ・幅広い視点からの例示と指摘で、日本、日本人、日本語についての新しい気づきがいくつもあり、固定観念の見直しができた。
 - ・非対面も含めて様々なコミュニケーションの取り方を体験できた。
 - ・ワークショップでは教室活動で使えるワークのヒントをいただいた。
 - ・日本語ボランティアではない普通の人の方から好反応が得られた。
 - ・今回は2時間の講演時間後に、和やかに歓談できる時間(1時間)がとれてよかった。

(10) 改善点について

声掛けはロコミが主で、毎回リピーターは多いが、新規の参加者がなかなか増えない。また、地域の一般の人や外国出身の人は多く参加するようになってきたが、教職員の参加はあまり見られない。、教職員の参加、日本語ボランティアが少ない。教職員は日程的にも忙しいので、開催時期を検討する必要がある。長期休暇中に講座を行うのがいいのか？等、今後、教育委員会、教育研究所とのさらなる連携が必要となる。また、地域の日本語教室は、それぞれ個性があり、連携しにくい面もあるが、本来の趣旨を考えると、他のグループにもっと声掛けをし、講演会の浸透を図るべきか。全体位として、開催時期は、天候が安定していて出やすい秋に、連続、集中して行うほうがよい。

6. 事業に対する評価について

(1) 事業の目的

外国にルーツのある子どもたちが、そのことばと文化の多様性を活かしつつそれぞれの能力を発揮して日本社会で活躍できるように、よりよい教育環境を作るための事業とする。そのために、①親の日本語学習(教育に関する分野)をサポートし、また②母語、母文化を大切にする気持を育て、日本社会に積極的に出て行く機会(ボランティア活動や文化紹介講座など)を作る。同時に、③子どもたちを取り巻く学校・地域社会などに働きかけ、お互いが知り合い理解し合える機会を作っていくなど、外国籍住民と地域社会がつながる双方向の内容とする。

(2) 事業目的の達成状況

運営委員会の内容が事業報告と、協力を要請するなど、地球っ子クラブ側が主導するだけでなく、外国につながる達の現状を共有し、どのように支援していったらいいのかを共に考える会になった。①取組1で、親が学校について話し合い理解を深める講座を開いた。七里公民館では昨年につづく講座で、七里公民館との協働事業であった。学校のことを知る期待権講座として、デイキャンプを実施し、多くの人が初参加。また、ボランティア体験を通して、学校にとどまらない貴重な体験ができた。NPO法人ECO>ECO、さいたま市の大崎子供動物園等との連携により、学校行事に近い体験ができた②すべてのとり組みで、参加外国人も含め、基本姿勢として定着してきた。具体的な活動としては、多言語によるおはなし会が発展。南浦和図書館の他、大宮図書館、さいたま市サポートセンターでも開催。各図書館との連携、サポートセンター及びそこで活動する「あつまれおやこ」のボランティアとの連携があった。③取組3を中心に、外国出身の人が企画の中心になることにより、直接日本社会と協働できる機会が作れた。「あつまれおやこ」では、子育て中の日本人ママ達のグループと企画会議を持つことが出来た。日本人側の多文化共生についての意識づくりに大きな成果があった。今年度はCoconico参加者の出産が相次いだ。取組2では、子育てのスタートから日本社会に出て行く活動を積極的に進めており、また、居場所、仲間作りとしての安定感が、安心して出産できる機運を津切り出したと考える。取組4では、2回の講演会を実施、日本語関係者だけでなく、一般の地域の人たち、外国出身者の参加があった。

(3) 地域における事業の効果、成果

文化庁委嘱事業2年目の今年度、意識して進めてきた連携から成果が生まれ、埼玉県グローバル賞の授賞、埼玉県の多文化共生推委員会の委員委嘱、また、さいたま市長との面会が実現した。文化庁の事業としては、(2)事業目的の達成状況で述べた通り、さいたま市教育研究所の教師研修で講師として協働、さいたま市立図書館、さいたま市民活動サポートセンターでの多言語おはなし会の広がり、七里地区の公民館や東宮下小との協力体制が進むなど、連携が大きく進んだ。外国につながる子どもたちが、その多様性を活かして日本社会で自分らしく生きることを目指して、地域の日本語教室として、外国出身の隣人達と共に気づきと振り返りと新たな活動の創生を繰り返し、多文化共生の街作りを進めてきた地道な活動が認知されてきた結果であり、子どもたちの教育の保障に繋げる体制作りへの一歩が進んだ。

(4) 改善点、今後の課題について

(1)で述べた各取組別に記述する。①昨年度に続き、親が学校教育に主体的に取り組むための講座「学校のことを話しましょう」を開いたが、参加者が少なかった。情報が必要とする親の元に届いていない。今回は共催した地域の公民館が広報を主導した形だったが、この段階でもっと地球っ子クラブ2000のノウハウを伝え動く必要があった。学校の力にもっと期待したい。②順調に活動が広がっているため、この部分を、新聞などさまざまな広報に結び付けていくことを考えたい。③活動の内容としてはいいものを作り出している。外国出身の隣人と地域の普通の日本人が当たり前に暮らす社会の実現のために、もっともっとアピールしていきたい。楽しい活動を通して、多様性が地域を活性し豊かにしていくことに貢献することをめざしたい。

i 現状

文化庁の委嘱事業を続けてきた成果として、行政、教育関係との繋がりができ、意見交換等を行う機会が増え、外国につながる子どもたちの教育の保障についてアピールする機会も増えた。その中で「どうして外国の子どもの支援をしなければいけないのか？」という考えに出会うことがある。「外国につながる子どもたち、今日日本にいる子どもたちはすべて日本の子どもたち！」と言い続けて来たが、今、「外国につながる日本の子どもたち」と言い換える必要を感じている。子どもたちを取り巻く社会(両親、学校関係、地域等)の意識を変えることが、まず必要な現状である。

ii 今後の課題

多文化ハッピープログラムとして、外国につながる子どもたちの教育環境をよくするために、地域の日本語教室として出来ることをやって来た。内容としては、親が子どもの教育に主体的に関われるようにすること、学校関係者はじめ地域社会全体が子どもの置かれた状況をより理解すること、また、母語母文化を子どもたちが大切に思える社会作りなど、日本語支援にとどまらない活動を作り出してきた。しかし、一ボランティア団体として出来ることは限られている。本当に効果のある支援に結びつくためには、フリースクールや、プレスクール、夜間中学など、子どもたちが学習に効果的に向かい合える体制作りが必要である。この2年、Bプログラムに移行してからは、行政、学校関係との連携を積極的に進めてきた。この連携の力を活かして、本格的な体制作りに取りかかっていく必要がある。

iii 今後の活動予定

子どもたちの学習を保障するためには、学習の場をつくることと、取り巻く社会環境をよくすること(多文化共生社会)が必要である。このうち、後者については、取組1～4で進めてきて、モデルとしての一定の成果もでてきている。だが、前者については、いくつかの団体がバラバラに単発的に取り組んでいるに過ぎない。その結果、子どもたちは学習する場を求めて、さまざまな場所に参加しても系統的な学習が出来ず、かえって混乱する場合も多い。この問題を解決するための体制作りがすぐに必要である。そのために、今までの活動にさらに広げると共に、行政、教育関係はじめ地域の多くの人に、外国につながる子どもの問題は日本社会の問題であることを認知してもらうことが必要である。また、各機関との話し合いの中で、必ず出てくる予算の問題をクリアするために、大きな予算がなくても出来ること＝今ある活動の連携を提案していきたい。さいたま市長との話し合いが実現したことから、この繋がりを継続し、連携をコーディネートすることを目指したい。また、今まで通り、外国出身の隣人と日本社会との双方向の学びを企画、実施し、多文化の街作りを継続発展していく。